

天桂伝尊
直筆艸稿『正法眼藏辨注』の翻刻（一）

小河村孝道
坂機融

解題・凡例

一、『正法眼藏』に関する末書は、禅師の寂後より江戸末期に至る間に限つてみても、多くの先人の参究の労著を列举し得る。その主な書目を、全巻に亘る注釈と、一巻乃至部分的注釈とに区分して、関説するものの書名を以下に成立年時順に閲りなく摘記してみる。

(一) 全巻に亘るもの。（「正法眼藏」の総題号省略）

- ①聞書抄（詮慧・經豪本）・②辨注草稿本・③辨注・④那
一宝草稿本・⑤那一宝・⑥却退一字參・⑦私記傍註
本・⑧私記・⑨聞解（斧山玄鉗註解）・⑩聽書・秘鈔
(万妙道坦本)・⑪傍訓・⑫過刻・⑬涉典錄・⑭涉典統
貂

- * (注記) ④那一宝草稿本・⑦『私記傍註本』は厳密には本文の部分注釈であるが、各々『那一宝』『私記』と直接的にも間接的にも関係することから全巻注抄の中に挙げておく。⑩『聽書・秘鈔』は①の再写に属するが、万仞の見解による抜抄書写の性格を有つことから挙示するもの。⑪『傍註』・⑫『過刻』は、本文の部分註、用語の解註であるが、全巻に亘る注記に属することから挙示しておく。⑬『涉典錄』・⑭『涉典統貂』は涉典中心ではあるが、用語解註の性格を有つことから掲げる。尚、是等の本書の性格、相互関係については別稿に譲る。
- (二) 部分に関わるもの
- ①光明藏三昧・②正法眼藏品目頌著・③聞解（面山瑞方注解）・④擊節集・⑤坐禪箴抽解經行參・⑥生死卷穿牛皮・⑦都機卷禿苦掃記・⑧正法眼藏辨々註・⑨諫蠹錄・⑩闢邪訣・⑪逆驢乳・⑫面授卷辨・⑬仏祖卷辨
- ・⑭大修行卷辨・⑮統紜講義・⑯僭評・⑰天桂不知正法眼藏之由來事・⑱校閱正法眼藏序・⑲彫刻永平正法眼藏縁由・⑳玄談科釈・㉑新刻校讐辨・㉒野狐変・錯

不錯・㉓補闕録・㉔涉典和語鈔・㉕和語梯・㉖玄談科
釈・㉗品目述贊

右は現在までに知られている末書の略舉であるが、厳密には更に細部に亘っては、例えば諸種『正法眼藏』書写本中に見られる書入れ、傍註類等も挙げる時には、注解資料は厖大なものとなるが、今は省略する。いずれにしても是等末書の本格的な研究は、『正法眼藏聞書抄』、その他一部の末書の断片的論考を除いては、余り進んではいないのが現状である。末書の研究は、『正法眼藏』の原意を、先人が如何様に理解・把捉し、伝達し、さらに継承・受容され展開してきたかという、謂者宗義の思想的把握と、それが宗祖の原意を適確に把捉しているものか否かの批判的研究を必須とする。その際、先人個々の宗意把捉の表詮である処の確かなる注釈資料の吟味が重要となる。そしてその資料については、何よりもそれが艸稿であれ、修訂であれ、当人の手書原著であることに越すものはない。是處に翻刻する資料は、そのような観点から、手書原資料の一篇を紹介するものである。

二、本資料『正法眼藏辨注』艸稿本の紹介と概要に關しては、既に「『正法眼藏弁注』の草稿について」（「仏教学部研究紀要」36号・P88~99・昭53、小坂論文）に於て詳論しており、再説することは措くので同所論を参照されたい。但

し、今は一点のみについて補説しておきたいことは、同論文に於て問題として指摘した『草稿』作成の時期を、『年譜』に、享保十一年（一七二六）起草、同十四年完成とする説に對して、享保十一年以前の着手と考えられるとする推論を述べたが、その事を証する記事が、本『草稿』の「第九有時篇」中に「今年ハ享保十年ナン月幾日云々」の註釈文があることに依つて証される。天桂は享保十年には既に註鈔に著手していた事を自筆本によつて語つており、以つて『辨註』作業年次を確定し得るものである。なお、同論文には「第一現成公案辨註」の全文を翻刻掲載したのであるが、本稿では艸稿本全巻の翻刻を意図したことから、改めて「第一現成公案」より再翻刻することとした。

本『艸稿』は「永平正法眼藏蒐書大成」全三十七巻の最後巻に収録し、加えて父幼老卯の『那一宝』草稿本をも収録したが、両稿本共に写真収録では判読不可能なこともあり、且つ両草稿が『辨註』、『那一宝』へと修訂完成する前段階での、それぞれの眼藏参究者の生ま生ましい声と、修訂以前の見解の如何なる点が訂されていったかの参究の軌跡『思想的展開の跡方を知る手がかりとしても貴重である。曾て天桂は宗内に於て“天桂地獄”と貶称・忌避されたことがあった。特に嗣法・戒法論を中心とした宗旨の把握・理解の相違を遡る、謂者主流・反主流的対立が齎し

た、多分に感情論的側面をもつた貶称であった。尤も主流

・反主流という表現は、必ずしも単純に真解・邪解と二分化

出来えぬものであることは、志部憲一氏（駒大講師）の精密なる研究成果からも窺い見ることが出来、また殊に天桂の

道元禅師への稽頼慕古の心行と、それに基づく『正法眼藏』

挙揚の注辨に参する時、一層にその感を深くする。翻刻の

本書中には、天桂の深い慕古道念からの憂宗の語が時に宗

門体制への関三刹や僧録司を始め、月舟・円山・了高その他の知識、さらには宗門の規矩、清規への激烈峻厳なる譴責・

批判語が諸所に散見される。それはまた逆にそれらの所言を通じてその背景となる当時の宗門の動向、宗侶の実態、

ひいては仏教界の動向等を照写し得る資料とも言え、宗門

史の一端を明らかにすることにも関わってくる。とともに、斯様な意義を考え、末書研究への基礎資料提供の意味から、本書全巻の翻刻を企図したものである。『辨注』

艸稿に次いで、老卵の『那一宝』艸稿本の翻刻をも意図していることを附記しておきたい。

三、翻刻に当つては以下の点に留意した。

△凡例△

(1) 『艸稿』原本には諸所に「見セ消チ」、本文や用字の塗消等、推敲の為の抹消が散見される。当初は是等をも出来る限り読解・翻刻すべく原稿化を進めたが、墨筆によ

る抹消のために読解不可能な箇所が多く、従つて本稿ではそれらの抹消部分の翻刻化を断念した。

(2) 原本の用字（略字体・正字体・異体字・平仮名・片仮名書）は出来る限り原本通りに表記した。但し万葉仮名字体は通常の平仮名体に改めた。

(3) 読解に便ならしむべく、改行・句読点を付した。

(4) 蟲損により判読不可能な場合は「」印で示した。

(5) 本文中、振り仮名は、原註釈者によるもので、往々にして訂正字（重字）などの判読を可能ならしむべく付したものが多いが、翻刻に当つては原本に準じた。

(6) 卷目名の略名——「礼拜得體」を「得體」とのみ表記するなど——は原本通りに表記して具名に改めなかつた。

(7) 艸稿本は折本十四冊で、各冊に数巻の巻目と註釈が収録されているが、巻次順ではない。翻刻に当つては折本の収録の巻目順ではなく、巻次番号順に準じて翻刻したのである。折本各冊の収録巻について、前掲『紀要』(p.90・小坂論稿) を参照されたい。

しもて行く。

第一 現成公案辨注

其身心を拈擧して諸法ノ色声を見聞するに、したしく會取す。すれ共、譬バ鏡ニ影をやどし、水ニ月ノ印スルごとくにハあらず。一方を證する時ハ、一方ハくらし。何故ゾ。仏を證する故ニ衆生ノ迷あるナリ。

諸法の仏法なる時節ハ有迷悟……衆生あり。心外に六度・四諦等ノ万行ノ法ヲ求ムル故ニ。萬法ともにわれにあらざる時ハ、心外ニ一法の見ルべきなく、無迷^{モゼ}無悟^{モゼ}、諸仏・衆生、生・死ノ見べきなし。

仏法元より豊僕より跳出トハ、豊僕ハ多少ノギ、人々自家ノ豊僕、知見ノ利鈍、多少ヨリ跳出シ出身ス。シカモ心外ニ法ノ多少を見ル故ニ、生滅、迷悟、生仏あり。其上、悟ヲ起ブハ、譬バ、花を愛惜スル故ニ却テ散ガゴトク悟ヲ得ズ。迷ヲキラフハ、譬バ、草を棄嫌スル故ニ却テ生ズルガゴトク、迷ヒ消セズ。但是心原、無^{モコロ}憎愛不知を以テナリ。

自己をはこびて萬法を修證スルト云モ、心外ニ法を見ノギ。

萬法すゝミて自己を修證するハ、自己ニ^(マ)反照スルギ。

迷を大悟スルハ仏、又悟に迷ふハ衆生、さらに悟上ニ得悟するトハ、悟辺を過却シ那辺ニ透過シ、這裡ニ行履スルナリ。迷中又迷ハ倍セル迷人。

諸仏ノまさしく諸仏なる時ハトハ、人々諸仏ナリト見ヰハ、自己ハ諸仏なりと覺知することを用るにあらずして、仏を證

惣メ、仏道を習フといふハ自己をわするるトハ、自己ノ、自己たる事を不取故、万法に證せらるゝナリ。万法に證せらるといふハ、自己・他己ノ身心を脱落せしむ。其時、悟迹もまた休歇す。其休歇ノ悟迹、また跳出して不^{ナリ}住^ニ在悟辺^ニ。惣じて元古仏脱落ノ語ハ、脱ハ徒活切、音奪、物自解也ノ宗訓ニテ、自余解脱ノギナリ。造作し剥脱・免脱ノギニアラズ。身心脱落ノ語をも、盲侶ノ類ハ、剥脱・免脱ノギト云。又落ノ字も、隕墜ノギト見テ、身心ヲ剥脱シ墜落メ粉骨碎身スルト云ヘルハ、是^(声聞)メ^ハ桥空ノ見解、甚^ニ背^ニ直指ノ玄旨^ニ也。ヨク^ク照看スベシ。

○人はじめて法をもとむ時……

道理あきらけし。此心ハ、自己ニ^(ママ)反照して、自心ノ箇裡ニ皈スレバ、迷悟・生仏等ノ万法ノ、見ルベキナシ。是を、万法ノわれニあらぬ道理、といふ。

身心を乱想して生死・迷悟・生仏等ノ万法を弁肯する時ハ、只自心自性ノミ常住ニして、万法ハ轉变幻化ノモノナリトあやまり、諸法實相、一相無相なる事ヲ了セザルナリ。

○たき木、はいとなる、さらにかへりてたき木とならず。

此一段ハ、生ノ、死トナルニ非ズ、死ノ、生トナルニ非ズ、生モ一時ノ位、死モ一時ノ位、生ハ只是生ニノ無生、死ハ只是死ニノ無死、是法住法位、世間相當住、直下不生不滅ノ義ヲ明シ玉フ。只此自心、不生不滅ニして生ノ生トするなく、死ノ死トスルナシ。生も死も一時ノ位ト云ハ、一時無時、一位無位ナリ。何故ゾ。一時ト云ハナンノ一時ゾ。此時節ノ年劫ハ、分別ノ数量、心地上何ンノ時節・年劫カアル。自心原ニ達スルヰハ、生も死も其法住_ニ其法位_ニ、前後際断、生ヲ不見、死ヲ不見、當体無生。是を、生も一時、死も一時、ト云。位ト云モ亦如是法住_ニ法位_ニ全其位無位。林才_(マ)無位ノ真人ト云ヘ者モ是ナリ。皆自心原ノギゾ。如是云ヘバ、復坐在_ニ鬼窟_ニ死漢トナルゾ。目ヲ開テ看ヨ、山河大地、森羅万像、長短方圓、迷悟凡聖、生仏、火火・生死、冗冗、悉皆一時ノ位ニノ無時無位、一法トメ無取、又無捨。シカモ無レ取可レ取之法ヲ取り、無レ捨捨可捨之法_ヲ。

冬ノ春トナラザルガゴトク、冬ハ冬ノ位一時、春ハ春ノ位にして、冬ト春ナルモナク、常自寂滅相ナリ。

彼古塔主ガ、馬祖ノ迂化ハ近ク五年ナリ、雲門ノ入滅ハ遠ク百年ナリ、ト云者ゾ。如レ是ノ無時ノ時節ヲ不了。故ニ、永平古仏、面授嗣法ノ眼ナシ、ト呵シ玉フ。

若古塔司ニ嗣法ノ眼目アルヰハ、無量劫ト云ヒ嗣法スベシ。

嗣法ノ眼目ナキ則ハ、先師迂化半日須臾ト云フ也、不可嗣法。花嚴疏ノ二十三ノ十六ヲ可考。抑モ五年ハ近ク、百年ハ遠シ、ト思ヘルハ、凡情ノ計度。是法住法位、世間相當住ナルヲ知ラズ、況ヤ是法無法、是住無住、是位無位ノ宗乘ノ事ヲヤ。無量時劫、遠キニ非ズ、半日須臾、近ニ非ズ。然ルニ卍山、面授ノ篇ノ跋ニ、非面授而可嗣法則無量劫後ト云モ可嗣法ト。非面授而ノ四字ヲ加ヘテ、臭面ト臭面ト對合スルヲ面授ナリト自己ニ會釈セシヲハ、禪眼ナキノ故、大イニ宗乘ヲ昧ス弁道ノ魔事、可痛哉。既ニ儒家者流ノ云、堯以是伝之舜、舜以是傳之禹、禹以是傳之湯、湯如是傳之文・武・周公_ニ、文・武・周公_ニ相去ル_ヲ五六百年ナランヤ。豈夫、孔子ト周公ト面會スルヤ。儒氏スラ如是、何況吾以心傳心ノ宗乘、臭面、臭面ニ對合スルヲ面授ト言ンカ、可笑可哭。擔道ノ人、審悉了之焉。下ノ生死篇、可并考也。

○人のさとりを得、水に月やどるがごとし、より下ハ、悟ノ悟トスルナシ。其理、水月ノ無_{ケイ}罣碍ガゴトク、其深キ_ヲ、其高キ分量ノゴトク、深キニ量ナク、高キ量ナシ。時節ノ長短ハ、自己心水ノ大小ヲ檢点シテ、移_(マ)リ来ル所ノ月ノ廣狹ヲ知ルベシ。実ニ其理ニ通達スルト則バ、スペテ大小・廣狹・長短ナシトイヘモ、人々自己ノ見儀ニ依テ廣狹・長短アツテ、シカモ其廣狹・長短ナキ_ヲ、月ノ、水ニ移_(マ)ゴトク、大ヲイワ

ズ、小ヲイワズ、スベテ無罣碍ナリ。

○身心ニ法のいまだ參飽せざるにハ、法すでにたれりとおぼゆ、ト云ヨリ下ハ、一所見ニ滯ルベカラザルヲ示ス。宮殿ノゴトク瓔珞ノゴトシトハ、海上、或時ハ宮殿ノゴトク、或時ハ瓔珞ノノゴトク見ユルヲアル。皆、所見ニ隨フノミ。海徳、是ニテ悉ク尽スベカ(ラ)ズ、只己ガ眼ノ見ル處ノミヲ見ル。海ノ、只まるニのミ見ユルモ、又宮殿・瓔珞ノゴトク見ルモ同じ。參學ノ眼目モ亦復如是。只一所見ノ理ヲ得タルヲ以テ、究尽トスベカラズ。塵中・格外、ソクバクノ様子ある事を究尽セヨトナリ。

○萬法ノ家風をきかんにハ、海ノ、方圓トみゆるよりほかに海徳・山徳、をほくきハまりなく、よもの世界あることをしるべシトハ、きハまりなしト云ハ、をほく物ありてきわまりなし、と云ニアラズ、無窮ノ無也。無量無數ノ語ノゴトク、是心地上、一点物ナキヲ云。心地ヲ見尽スニ物ナシ、是を無窮無邊ト云。ナニ、テモ一法ノ見ルベキアルハ、一所見ナリ、窮尽ニアラズ。然バ一所見・一所住ニ滯在スベカラズ。○かたハらのみかくのごとくあるニあらず、直下モ一滴モしがあるとするべシトハ、直下、一毛・一塵・一滴ノ上、窮尽ナシ、邊際ナシ、是什麼ノ境界ゾ。只這是回頭換面スベカラズ。○魚の、水をゆく、ゆけども水のきはなく、鳥の、そらをとぶに、とぶといへども空のきはなしト云已下ハ、鳥飛魚蹈ル

其所を得ル則ハ無碍ナルごとく、用所ノ大小ニ隨テ使為モ亦大小アリ。其大小ニ隨イモテ行則、其頭々ニ邊際を其処々ニ踏翻せずといふヲナシトイヘども、鳥も魚も、其所依トスル所の水ト空トをはなるれば忽死。如是則魚ハ以水為命、鳥ハ空をもて命トスト知ベシ。以鳥為命、以魚為命ト云ハ、命云ハ本命心なり。四聖ハ以法為身為命、六凡ハ其以業為身為命。以命為鳥、以命為魚トハ、上ノ語ヲ回互スルノ詞ナリ。この外、さらに進歩アリ、修證アリ、その壽者命者アル事かくごとシトハ、前云所ノ外、更ニ進歩・修證アツテ爻乘・䷗乘・苅乘・仏乘ノ行履アル。是前ニ云、用所大ナレバ使為大ナリ、用所小ナレバ使為小ナリ、ト云モノゾ。如是進歩シ修證シモテ行、亦其所依ノ道チ、所依ノ所ノ壽者命者アルナリ。しかるをしらで、はじめより水ノ(邊際)きわを窮メて行ントシ、空ノ(邊際)きわを窮メて行ントスルキハ、水ニモ空ラニモ道ヲ得ズ、処ヲ得ベカラズ。若大小・高下、箇ノ処ヲ得、箇ノ道ヲ得則、箇ノ自己ノ行履隨テ現成す。是以可知、箇道・箇処、非大非小、自ニアラズ、他ニアラズ、廣狹・長短・方円・近遠ニアラズ。先ヨリ有ニアラズ、今又現ズル物ニアラズ。しかある故ニ、人、若仏道ヲ修證スルニ、得一法通一方、遇一行修一行、これニ処アリ、道チ通達せるニ依テ、しらるゝきはノしるからざるハ、箇ノ知ルノ仏法ノ究尽ト同生同參する故ニしかなり。大ニおゐても道ヲ得、小ニおゐても処ヲ

得レバ、一法・一方を小トスベカラズ、萬法・万行ヲ大トスベカラズ。大小円融、一多無碍ナリ。

雖如是、得処・得道、必自己ノ知見となりて慮知ニしられんと習フナカレ。如是学人、證究スミヤカニ現成ストイヘビ、イマダ親密トセズ。的実親密ノ事ハ、何必如今現成ト云ンヤ。密ハ却在汝邊ノ密、有ハ始有・本有・妙有・妄有ニアラズ。コヽニ知、

麻谷宝徹禪師ノあふぎをつかふ、因ニシテ。其理分明、注釋ニ不及。其中、風性ハ常住なる故ニ、仏家ノ風ハ大地の黃金なるを現成せしめ、長河を攬テ蘿酥を參熟セシムルノ活手段ニアリ。故今、扇子をつかふ処、是這ノ手段ナリ。不可参死句者也。

○達摩不_レ來_三東土_二、二祖不_レ往_三西天_二、ト了_(マ)高ト云坊主、点シタ。情識ノ計較、法ニおるて甚非也。

いま道取する、尽十方世界、是一顆ノ明珠、はじめて玄沙にあり。其宗旨ハ、尽十方世界ハ、廣大ニあらず、微少ニあらず、方圓、中正ニあらず、活鱗々、露迦々ニあらずト。如是一切ニあらぬ物、以是什麼物恁麼來ナル、此物、生死去來ニあらずして生死去來するも是也。故ニ、昔日曾此ヨリ去リ、而今マサニ此ヨリ來ル。此ヨリ、トハ、何ノ処ヲ指スカ、方処イカン、ナリ。如是ナル物を究辨スルニ、誰力は片々段々トキレゝ、ナリト見徹セン、誰カ兀々寂々ト不動ト検挙セン。片々ハ、新話註ニ、片ハ段也ト、兀々ハヨニ不動貞。今者尽十方ハ、逐物為己、逐己物、認賊為子、認子為賊、是未

第三 一顆明珠篇

第二 摩訶般若篇

不及注辨、文明易解

休迷倒ノ時節ヲサス。清涼澄觀云、情生智隔、と。此隔ト云ハ、是回頭換面トコチラヘネヂムカシメ、事ヲ展テ機ニ投ズ、ト是をいふ。尚是逐己為物ト、子ヲ賊トスルゴトク、此間ハ未休ナル尽十方ナリ。

機先の道理なるゆへに、機要の管得にあまれることありト。機先トハ、機發未兆已前、一切無生底ノ道理。機要ノ管得、以一統^ヲ衆底ノ要道ノ主、當管得ニモ尚剩レルヲアリ。

是一顆明珠ハ、いまだ名ニあらざれども道得ナリ、トハ、一顆ノ明珠ト云モ、廣大ニアラズ、微少ニあらず、方圓・中正ニあらぬ物ノ、名ニハアラザレ毛、今日玄沙ノ道得^ム。如^ク是名ニ認じ來ル^ヲ、宗門ニアリ。シカモ

一顆明珠ハ直須万年トハ、此明珠ハ久遠常恒底^{ティ}ノ物ニメ、古ニ亘ル^ヲ未了今ニ亘リ來ル。古今邊際ナク、無所住ニメ古來今ニアラザル物。

身今アリ、心今アリトハ、今現前ノ身心トイヘ毛皆是明珠ナリ。彼此ノ草木、乾坤ノ山河ニアラズ、只是尽十方一顆ノ明珠^ム。

學人如何會得す。此道取ハ、たとひ僧ノ弄業識ニ似タルモ、

大用現前、輒則ヲ不存ナリ。すゝミて一尺ノ水ニハ一尺ノ波を、百尺・千丈ニハ百尺・千丈ノ波ヲ突兀ナラシムルベシ。ソノゴトク、一尺珠・一丈ノ珠ハ、一尺・一丈ノ明ナリ。如^ク是ノ道得ヲ道得するに、

玄沙ノ道得ハ、尽十方世界、是一顆ノ明珠、用會作麼ナリ。此道取ハ、仏ハ仏ニ嗣し、祖ハ祖ニ嗣し、玄沙ハ玄沙ニ嗣する底、人人円具、ケケ本成ノ道理ヲ道得する^ム。宗門嗣法ノ眼ト云、是也。故ニ

嗣せざらんと廻避せんニ、廻避ノところなかるべし。もしされるも、しばらく灼然回避するも、如是ノ道得生あるハ、明珠現前ノ蓋シ時節也。又ノ義ニ、灼然回避するもノモ字、衍字也。蓋字ノ下ニ、覆字、脱スルカ。其這ハ、且ク灼然回避する道取生あるハ、明珠現前ノ蓋覆ナラン、トナリ。此義尤好。玄沙來日間其僧^ヲ一會ト。是ハ道取、ト有テハキコヘヌ。是ノ道取ハ、トアリテヨシ。言ハ、如是ノ道取ハ、昨日說定法する、今日二枚をかりて出氣す。今日不定法^ヲナリト。是も、文字顛倒スルカ。昨日說定法、今日說不定法、推倒昨日點頭笑、今日此二枚ヲかりて出氣、トアリテヨケン。一枚トハ、定法・不定法ノ二枚カ。其意ハ、定法トハ、尽十方一顆ノ明珠ト云。是定法ナリト云ヘ毛、一法ノ定相ノトルベキナシ。故ニ、你作麼生會ト云、是レ不定法^ム。會也・不會也ノ道得ハ、不定ノ法^ム。定法・不定法ハ、會元第一ノ十二丁ニ出。

僧曰尽十方^ヲ一作麼トハ、いふべし、騎賊馬逐賊、他ノ言句ヲ賊取スルナリト抑下^ム。尋來ハ、此語ハ作家ノ機用ニ云フ、今マハ別^ム。

古仏為汝說スルにハ、吳類中行^トハ、玄沙古仏ノ、汝作麼

生カ會スト為汝説する甚麼意ハ、南泉・道吾ノ所謂、切忌道着、道着即頭角生ノ吳類中行。異辨ノ所ロ道着スレバ頭角生。依語生解スルコナカレ、且ク返照して見ルベシ。然ルニ、サハナクシテ玄沙ノ口チマネヲシテ、用會作麼ト云。シカラバ汝ガ所ニ、

幾ヶ枚の用會作麼力ある、試道するニハ、乳餅七枚、菜餅五枚なりとハ、此僧ノ用會作麼ト云ハ、幾ヶ枚カアルト試ミニ道フニ、七・五ノ數多シトイヘモ、玄沙ノ、作麼生會ト云ル、ハ、湘之南、潭ノ北ノ教行ニして、方所ハナイ。乳餅・菜餅ト云ニ用ハナイ。只七ヶ五ヶト云ンタメ。湘之南、潭之北モ、只方所ヲサヽヌヲ云ンガタメ歟。

玄沙曰、知汝向鬼窟裡作活計。餓鬼道ノ活計、食ソ高楊枝ゾ、ト抑下ナリ。

諸人可知、日面月面ハ往古ヨリ不換不變ナルコラ。汝ガ四ノ五ノ云ニ及ヌコゾ。日面ハ日面ト毛ニ共出ス、月面ハ月面ト毛ニ共出ストハ、日面ハ日面ト毛ニ共出ルモノハナンゾ。日面ニハ日面ト毛ニ出ル、是光明ナリ、月面モシカリ。毛ニ共出トアルハ、重示言葉ニして、只共ニ出ル、ト云ギ也。惣じて、永平祖師、ノ玉フ為汝説するノ類、いまだ不換ナリノ類ニテ可見。只義ヲ取テ文字ニナヅムベカラズ。如是ノ言葉ハ、是台教ノ釈文ノ風ナリ。此故ニ、藥山所謂、夏時對他便是姓ハ熱、ト云ベシヤ。汝、祖師ノ語要ヲ知ズ、可哀哉。然バ此

光明ノ、始アリ、始ナシ、ナド云ハ、無_シ端_{ハシ}、ナンノ端緒端由ナキコゾ。前ニ云ゴトク、大ニアラズ、小ニアラズ、中正ニモアラズ、活鱗々、露迦々ニモアラズ。更ニ在所方所ノ指揮ナシ。你作麼生會。

尽十方一顆明珠、又、兩顆、三顆トハ云。又、全身是一隻ノ正法眼アツテ見ルベシ。全身是汝ガ真実体、不可他求、全身是一句、有口則可言。一句ト云ヘバ、一言ニメ二言ナイコト云ヘバ、多言スベカラズ、只一句トノミ思フバ、愚盲ノ見ゾ。終日終年、言談歌笑、只是一句ナリ、全身一句、全言一句ゾ。全身是光明無他物、全身是全心、身心無二如。如是全身全心ノ時、你ガ全身、ナンノ罣碍カアラン。直是圓陀々地、轉轆々地、是則明珠ノ功德現成ナリ。是故、而今の你ガ見色聞声即觀音・弥勒_ム。又現身説法ノ古仏・新仏ナリ。

正当恁麼時、或ハ虛空に懸り、衣裏掛り、或ハ領下ニおさめ、髻中ニおさむ、是是尽十方一顆ノ明珠なり。しかも、衣ノ裡ニかゝるを様子トセリ、おもてニかけんと道取するコナカラ。髻中・領下にかかるるを様子とセリ、髻表・領表ニ弄せんと擬することなけれ。表ト云ハ、心外ヲサスナリ。

醉酒の時節に玉ヲアタフル親友あり、玉をかけらるゝ時節必醉酒するなりトハ、醉酒ハ、無明不覺ノ酒ニ醉ナリ。シカモ其無明ノ不覺ニ依テ覺アルハ、是一切智心ノ珠ヲ衣裡ニカクルト云ヘ。髻中・領下ノ珠モ、同是一切智心、今玄沙ノ所謂

一顆ノ明珠ナリ。故ニ云、既得恁麼ハ尽十方にてある一顆ノ

明珠ナリ。

二も、全ク似テハあらざれば、たゞまさニ黒山鬼窟ノ進歩・退歩も、是一顆ノ明珠なるのみなり。

しかあれば、轉・不轉の珠ノ面ヲかへゆきニ似レモ、すべて明珠なり。サテ、玉ハカクアリト知ル、則是明珠ナリ、明珠ハ如是ノ声色アリ。既得恁麼なるにハ、我ハ明珠ニハアラジとたどらるゝハ、玉ニあらじと疑ハざるべき。たどり、う

たがひ、取舍する作・無作も、只暫時小量見、更ニ小量ニ相

似ならしむるのミ明珠ノ彩光なり。愛好せざらんや、此明珠如是ノ彩光キハマリなき。其ノ彩々光々、片々條々ハ、尽十方界ノ明珠ノ功德也。誰力はを擄奪せん、行市に博をなぐる人なし。有利無利不离行市ノ自家ノ珍宝なり。しかあれば、六道ノ因果に、不落ニもせよ、有落ニもせよ、是をわづらふ事なれ。因果歴然ニして、しかも因モナク果モまたなし。此因果不昧ニゾ本ヨリ來タ頭正尾正、初後不二ナル明珠ハ、你ガ面目く、明珠ハ你ガ眼睛く。

西天二十八祖ニハなし、震旦、はじめてきけりトハ、勿論、仏説ニハ、是心即仏、是心是仏ノ説アリ。二十八祖ニハ、其意旨アツテ語ナシ。二祖、始テ示三祖曰、是心是仏、是心是法、法仏無二、僧宝亦然、ノ語アリ。震旦馬祖下ヨリ、多此商量アリ。

学者多ク誤ルニ依テ將錯就錯セズ、將錯就錯せざる故ニ、多外道ニ零落スト。此文ノ内ノ、せ。ず。ノ。せ。ノ。字、せ。ざ。る。ノ。ざ。字、衍カ。しからざれば、文義不_レ通ナリ。其意ハ、師家タル者、即心是仏ノ語意ヲ錯ル故ニ、就テ学人多ク將錯就錯ス。將錯就錯せる故ニ、ヲ、ク外道ノ見ニ落チ入ルトアリテ、せ。ず。ノ。せ。ノ。字、せ。ざ。る。ノ。ざ。ノ。字、衍字ナリ。文義ヲ照看セヨ。如是等ノ筆人ノ写誤、往々不少。悲哉、一盲摸衆盲焉。

近代ハ大宋國、ト云ヨリ已下、イワユル、ト云ニ至テノ數行、吳本ニナシ。有無共ニ無害、同クハ無キ方好シ。

仏、百草を拈却シ来り、打失シ来ル。しかあれども丈六の金ぬニあらず。明珠にあらぬ物がありて起サセケル行ニも、念

身ニ説似せず、即公案あり、見成を相待せず、敗壞を廻避せず、是三界あり、退出にあらず、唯心にあらず、心牆壁あり、いまだ泥水せず、いまだ造作せず。あるひハ即心是仏を参究し、心即仏是を参究し、仏即是心を参究し、即心仏是を参究し、是仏心即を参究す。かくのごとくの参究、まさしく即心是仏、これを举して即心是仏に正傳するなりト。

此章、文甚ダ難見、心を能付テ見ヨ。最初ノ仏百草トアル仏ノ字ノ下、ハノ字入ベシ。即公案ありノ即ノ字ノ下モ同ジ。是三界ありノ是ノ字下、唯心ノ下、皆、ハノ字入ベシ。

其意ハ、是下ニアル、仏即是心ノ四字を分テ、シ仰タモノゾ。故、仏即是心ノ仏ハ、百草、拈却し来リ、又打失し来ル、ノ

道理あり。シカレモ、趙州ノ所謂、拈_ニ一茎草_ヲ作丈六金身底ノ仏ヲ説似スルニハアラズ。此仏ハ、ナニ仏ゾ。如是故、拈却ノ却ノ字、恐クハ、起ノ字ナラン。サテ、仏即ノ即ハ、公案ありト云モ、公案なりトアリテ好シ。心ハ、即字、便是段ノ公案なり。シカレモ、見成を待ツニハアラズ。又、敗壞を回避せず、是三界ありトハ、ありトイふを、なりトスベシ。是モ、文、顛倒スルナラン。是心ノ是ハ三界なり。スベテ敗壞無常ノ三界ヲ回避スルニアラズ。彼ノ、不如三界見於三界、ノ法花ノ文ノゴトシ。又三界を退キタルニアラズ。法花十如是ノ是ノ字ノ心ニ見ヨ。

サテ、唯心にあらずノ文ハ、前字アラン。心トハ唯心ニあら

ずトありて好シ。言ハ、是心ノ心トハ、唯心ノ心ニあらず、心牆壁なり。泥水せず、造作セザルナリ。牆壁ありノあり、を、なりトスベシ。

サテ、下ニ、即心是仏を参究し、心即仏_は是_ヲ参究し、仏即是心を参究し、即心仏是を参究シ、是仏心即を参究す、とある。此即心是仏ノ四字ニ依テ、四句ノ偈、五首二十句ヲ出シ、其下、各着語シ玉フ。老僧、昔日拜讀セシ正法眼藏ノ第五卷目ニ有之。近代、或師添削シテ、此五偈二十句、諸本ニナシ、痛哉。二十偈并着語、禪眼眊メ眼見不及故ナルベシ。是ハ、二十偈并着語、共ニ老僧ガ写ス正法眼藏ニ出_ル。此章、次下親可着眼。

いわゆる正傳しきたれる心といふハ、一心一切法、々々々一心なり。更無他心。若識得心大地無寸土。豈有他物。しるべし、識得心する時、蓋天撲落、匝地裂破す。何ゾ恁麼のみならん、十方虛空消殞す。或心を識得スレバ大地更厚サ三寸ヲマス。三寸ノミナランヤ、千丈・万丈、脚下雲生。古德云、作麼生是妙淨明心。山河大地、日月星辰。明ニ知ヌ、心とハ山河大地なり、日月星辰なり。然共此道取する所、進メバ不足、退ケバあまりあり。這什麼力不足所、汝ガ求ムルガ為メ_ル。這什麼力餘リアル、廻避スルニ地ナシ。

山河大地心ハ、山河大地のみなり、更ニ波浪ナシ、風烟ナシ、只是山河大地。日月星辰心ハ、日月星辰心、更ニ霧ナシ、霞

ナシ。生死去來心ハ、生死去來のミなり、更ニ迷ナシ、悟ナシ。只這是牆壁瓦礫心ハ、牆壁瓦礫のミ、更ニ泥ナシ、水ナシ。四大五蘊心ハ、四大五蘊のミ、馬ナシ、猿ナシ。如是いふハ、見ニ無他、一物。下ノ、竹ナシ、木ナシ、同意。諸相非相、即見如來、是を即心是仏ト云。シカモ即心是仏、峴嶮ニ

呑束スビカラズ。發心・修行・菩提・炎せざるハ、即心是仏ニアラズ。一刹那發心・修證、無量劫發心・修證、同一即心、同證是仏。しかるを、即心ト云バ頓ナリト思イ、三祇修證ト云ヘバ漸ナリト思フハ、イマダ即心是仏ノ參學ニアラズ。可知、此心、更ニ長短ノ時節ナク、頓漸ノ分際ナシ。一切不レ生刹那義、不下與ニ愚者ニ説上、楞伽ノ文、是ナリ。

三世諸仏、ともニ仏トナル時ハ、必釈迦牟尼仏トナルトハ、是即心是仏、諸仏同道同体ヲ示玉フ。

その導師ハ、男女ノ相ニアラズ、大丈夫なり、恁麼ノ人なり。古今ノ人ニアラズトハ、古人・今人ノ心デ見ルベカラズ。野狐精ナリトハ、為レ人則駢胎馬胎ト。是ヲ金毛師子却入野狐窟ト云。是善知識、挖泥帶水、無碍ノ爪牙ナリ。得隨ノ面目アル導師ト云ゾ。不昧因果ノ大修行底ノ人云、全ク無他。你我渠ニメ非別人。

抑一切ノ法ハ、只般自己ニ可見。自己ニ般スルトハ、他ノ六祖ノ示教ノゴトク、他ノ善惡ヲ不可見。師ニ逢ン時、容顔・相好ヲ見ルベカラズ、並ニ種姓ヲ観ズベカラズ。或ハ師ノ行迹ノ是非ヲ考ルコナク、只般若ノ智ヲ尊重スベシ。今ノ学者ハ、其師ノ立チ振舞、行迹ヲ作レバ、殊勝ナリ、有ガタシト思テ、自己ノ辨道ノ為メニナル、ナラザルヲ考ヘズ。シカル故ニ、規矩、鐘・鼓ノ拍子ヲトルヲ仏法ト思イ、自己ハ御留守ニナルヲ知ズ。是ヲ、他ノ善惡ノ行相ノミヲ見テ、自己ニ般スルヲ要セズト云。シカル故ニ、今叢林徘徊ノ雲水ハ、十二九ハ規矩ヲ修行シテ是ヲ向上ノ事ト云テ、自己ノ辨道、夢ニモ不見。空腹虚分ノ我慢者ニナツテ、果テハ調偽ノ名利

第六 得 髓

第五 洗 浄

不及辨注

ニ沈溺シ去ル。故ニ、今日宗門中、師・学氏ニ一ヶ半ケモ実地ノ人ナシ。ミナ、仏法ヲ瓜ヤ茄ヲ作ル羊ニ、分別ノ糞ヲシテ作り立テ、在家ノ男女ニ殊勝ヲ賣ルフ、アサマシキカナ。是以、永平ノ宗乗ハ、地ヲ拂テ尽ク。故ニ、此正法眼蔵ノ玄旨ヲ了知スルモノ、千万ニ一人モナシ。尽ク喧酒糟ノ漢ナリ。或ハ又、世典、俗書ヲ多クミテ、事実・典拠ヲ記持メ、博学ノ名ヲ賣ル。又或ハ、詩偈ヲ作り習イ、問答・拳詰ヲ禪子ノ藝トス。皆凡情利養ノ捷徑ヲ計ル今日、是什麼ノ時節ゾヤ。老僧寐テ寤テ痛悲スル多年。聞説、キクナラク 関東ノ生土ハ、心勇ニ、其人トナリ、正直ナリト云ニ依テ、幸イ東都四谷天龍寺、牛両込法泉寺ノ寺主惱請スル故、行年八十二シテ下向シ、一派ヲ垂誠ス。賢学、凡千人ニ及ブ。仍テ、直截根源、入理深談スト雖モ、是モ亦石上ニ水ヲ洒グガ如ニメ、機ニ投ズル的ナシ。特ニ老軀ニ侵サレ、痢疾ヲ煩イ、半ニメ止ム。其故ヲ考ルニ、永平古仏ノ慈誨ノゴトク、法ヲ重クシ身ヲ輕ンズルノ志氣ナク、打頭ヨリ求法ノ念ナク、賣法ノ思ヒノミ。出家ノ日ヨリ、江湖門首ヲ願イ、寺ヲ所望ノ計度ノミ。是曹洞土民ノ僻病、別而関東ノ風俗、至テ卑劣ニ、在俗ノ人ニモ耻ルノナク、ヒマ 担那ノ機嫌トリ、茶屋ノ様子ノゴトク、酒杯ヲ常ニ調ヘ、是を一大事寺持チノ好キト云。アヽヽ、マタ 僧力俗力、イカシヽ。其中ニ、大鼓、鐘ヲナラシ、規矩ノ似シテマタ 担家ニ殊勝ヲ賣ル者アルハ、其ノ態ザラ宗門向上ノ事トして鼻孔

ヲソラス。皆是、北地大乘寺月舟・円山ノ両賣僧ガ、彌偽ヲ傳授セル徒類ナリ。實ニ一点ノ真心ナク、却而賊心、自餘ノ寺主ヨリ甚シ。故ラ関東ニハ三ヶ寺、東海道ニ可睡斎トテ自己僧錄ト云ファツテ、宗門破敗ノ法賊アリ。彼ラ、文盲無法ニメ、強ラ官辺ニ阿附シ、茶道坊主、掃地坊主ニ不レ異。然モ官辺ヨリハ、彼ラヲ宗門ノ署ト名ケ、權柄ヲトラシム。故ニ、宗弊日日ニ起ル。寺・他ヨリ賄賂ヲ得テ、種々ノ不道ヲ行フ、言語道断。這回、老僧、江府垂誠ニ、ヒテ 大中寺坊、總寧寺坊、切ニ忌ミ嫌フ、其ノ底意アリ。就中、龍穩現当共ニ隨喜不レ鮮。カラ 是不レ有ニ志氣、只正直心ニシテスルモニ 伏レ理半バナリキ。若シ無病ニして垂誠ヲ遂ル毛、三ヶ寺ノ泥坊主毛、害ヲナスベシ。可睡モ、当住ハ正直ナリトイヘ毛、隱居泥坊主、太ダ法ニ障碍ヲナス不便ノ者ナリ。東海道、関東ノ為躰、偏ニ魔世界ト云ベキカ、痛哉。

正修行ノ志アラン人ハ、此篇ヲ熟読して、日用行履ヲ勇健ニスベキコナリ。

妙信尼云、不是風動、不是幡動、不是心動ノ語、ヨクヽ參究スベシ。老僧ハ云、動中有不動、ミミ 中動搖、動与不動、共是越仏超魔、一大好事、你作麼生會。

東をすてゝ西ニかくれむとすれば、西ニも女人ノ境界なき二あらず、たどへにげぬるとおもふとあきらめざるにも、遠に

ても境なり、なをこれ解脱ノ分ニあり。次ノ一章ハ、落字、衍字アルカ、義理難レ辨シ。しかれども、アナガチ辨道ノ要文ニハアラズ。按ズルニ、にげぬるとおもふとあきらめざるハ、遠ザケても境アラン、これ解脱ノ分ニハあらず。遠境イヨク其意深カルベシ。故ニ如_レ下截男根_二仏甚誠_玉_ヲカ_レ之。只能縁心ハ、是本根ナリ。タシカニ是ヲ返照セヨ。所縁ノ外境界ハ、枝葉ナリ。是捨レ本而取レ末、不可當也。代醉二十六ニ云、先主嘗因_ニ阜僕_ニ禁_ス三酒刑_ヲ、吏於_ニ人家_ニ檢_ニ得釀具_一、欲_レ令_下与_ニ釀_レ酒者_ニ同罰_上、時_ニ蘭雍從_ニ先主_ニ游見_下一男子行_上道_ヲ、雍謂_ニ先主_ニ曰、彼人欲_ニ行姪_ニ、何以不_レ縛_レ、先主_ニ曰、何以知之、雍曰、彼有_ニ姪具_一、与_レ欲_{スル}釀_レ同_シ、先主大笑、命原_ニ欲_レ釀者_ヲ。これ、其意ヲ制メ境具ヲ不_レ制アラズヤ。又同書曰、劉玄明甚有_ニ吏能_一、歷_ニ建康山陰令_ニ政當為_ニ天下第二、後傳嗣代_ニ山陰_ヲ。問_ニ玄明_ニ曰、願以_ニ旧政_ニ告_ニ新令尹_ヲ、玄明答曰、我有奇術_一、鄉家譜_レ不_レ載臨_レ別_レ、當以相示_ハ既_ニ而言_ハ、作_ニ縣令_ト惟日食_ニ一升飯_ヲ而不_レ飲_レ酒_、此第一策也ト。是又意地外無_ニ奇策_一アラズヤ。

然ルニ、弘法ガ高野、傳教ガ叡山等、女人結界ト云、実可_レ笑之一興也。是且置、近代、万徑和尚ト云テ、天下僧俗ノ皈敬ノ皈敬セシ知識アリキ。老僧モ親切セシ人ナリ。然ルニ、豫州ノ開山ノ地ニ、女人結界ヲ所立セラレシヨシ、甚疑シキノミ。女人ヲ禁ズベクンバ、達磨四哲ノ尼總持、大愚ノ末山、

仰山ノ妙信等、ナントシテ嗣法ノ祖トナレルヤ。万徑、迂化後ニ聞之。直ニ不_レ聞故ニ残心ノミ。想フニ、没後ノ瞎禿子ノ徒弟等、殊勝ヲ人家ニ賣弄スルノ計度カ。若万徑和尚致之、則不是真人、破落黨假長老也、可悲哉。請、吾門ノ諸和上子、永平古仏此篇ノ垂誠ヲ熟覽メ、法ヲ重クして人我見ヲ亡ゼヨ。

第七 溪声山色篇

しかあれば聞溪悟道ノ因縁、さらにこれ晩流ノ潤益なからんやトハ、東坡居士が聞溪悟道ノ因縁ヲヨク照看セヨ。今ノ晩流ノ学人ノため、灌澤利益なからんや、實ニ可哀。いくめぐりノ生死か山色清淨ノ現身、溪声廣長ノ説法の化儀ニもれたるごとく、なにしてかさらニ山色を清淨「身」ト見、溪声を廣長舌相ト聞く、是一句なりとやきく、半句なりとやきく、八万四千偈_ハとヤきく。見聞圓通する則ハ、山色溪声ノミ清淨身、廣長舌ニアラズ。談笑哥歎、絲竹風韻、凡声響アル者ハ、是廣長説法非也。山色ノミニアラズ、万象森羅、草芥人畜、凡形色アル者、是清淨現身ニ非ヤ。是を見聞くコアタワヌハ、アワレムベキノフ_ハ。如是ナル則ハ、山水ニかくれたる声色

ニして、人ニ見聞せざるハうらむべし。今日、東坡ゴトキ、山水ニあらわるゝ時節因縁有フハ、ヨロコブベシナリ。学道人、急ニ着眼竦レ耳見聞セヨ。日々ニ、廣長舌相も懈倦ナク説法アリ、時々ニ、清淨身常ニして曾テ存没ナシ。

しかれども、あらわるゝ時をヤちかしとならふ、かくれたる時をヤちかしとならわん、一枚ナリとやせん、半枚ナリトヤせん、とある言葉、難レ解。是古仏ノ、学人ノために徵詰ノ言葉ナリ。其意ハ、見聞声色裏、遠近数量ノ分別ヲ容ルニアラズ、直下ニ見ンコト機發せしめんためなり。前ノ、一句トヤせん、半句トヤせん、八万四千偈トヤせんモ、同意ノ。いづれの所見も、如是見ヨ。

從来春秋ハ、山水を見聞せざりけり、夜來の時節ハ、山水を見聞する事わづかなりトハ、東坡、從前ノ春秋年月ヲ経ル内ハ、山水ノ淨淨身、廣長舌ナルコト知ラザルハ、山水ヲ見聞せざりけるが、昨夜纔ニ清淨・廣長ナリト見聞セシ、是箇ノ時節ナリ。你輩、ケケ人々モ亦復如是、不可蹉過也。

いま学道の井も、出流水不流より学入の門を開すべしトハ、今吾門参禅学道ノ井子も、山水ノ流ニもあれ、不流ニもあれ、是ヨリ学入ノ門戸を推開せば、好ケノ時節ナリ。

或本ニ、山流水不流トアル、其時ハ山ハ流て水不レ流。你ガ断常見ヲ轉却シテ、橋ハ流テ水ハ不流ノ好風流を會取スベシ。禪師の言下に、翻身の儀いまだしといへども、溪声ノきこゆ

る所ハ逆水の波浪^{ロフ}たかく天をうつものなりトハ、無情説ノ話ノ參問^{サンモン}下ニテハ、居士、いまだ機發セズ、今わ、溪水ノ廣長舌ヲ聞取シテ逆水波滔天ナルコト得タリ。是溪声ノ、居士ノ耳边ヲ驚ストヤゼン、照覚ノ、辯河ノ流淳ナリトヤゼン。疑ラクハ、無情説法ノ響キいまだ不レ止、ひそかに溪流の、夜ルノ声に入ルナラン。然モ、是を誰カ照覚ノ辯海ト溪流ト一水也一海也ト弁肯シ朝宗せん。畢竟、居士ノ悟道か、山水ノ悟道カ、是一カ、是二カ、誰レ人ノ明眼有テカ廣長舌相・清淨法身を急ニ着眼せざらん。目アヒテ見ヨ、トヘ。急ニトハ、直下ト云ンガゴトシ。蓋、居士ノ悟道カ、山水ノ悟道カ、トアル。此書ニ、往々此ノ格ノ言句アリ。ヨクく眼ヲ着ヨ。多ノ人ノ思ハクハ、悟ハ心ニテ悟ル、山水、豈心アツテ悟ンヤト。是皆宗乘ヲ知ザル瞎禿子ノ云々。尽十方世界自己ノ光明、尽大地沙門ノ一隻眼。又、雲門ノ所謂、古仏露柱交參、是第幾機ゾ。撲落非他物。是等ノ古人ノ語、參究すべシ。居士ノ悟カ、山水ノ悟カ、可レ知レ之也。急ニ目アケ、仏説ニハ、不如三界見於三界、又、一人發レ真帰^{キスレバ}源、十方虛空銷殞^ス亦復如是。

次下ノ香巖ノ悟處ノコト、往々一物相似ノ瞎禿子共ノいへるハ、鴻山、為メニ不レ説、此事非言句上。シカル故ニ香巖云、恩超父母。吁愚哉、此事トハナニノコト。瓜カ、茄子^{ナスビ}カ、大根カ、牛房カ。作り出スモノト思ヘルカ。若非^ト三言句云ハバ、何処

ニカアル。天ニアルカ、地ニアルカ、啞子ニアルカ、聾子ニ

アルカ。此事、言句ノミニアラズ、一切處ニアラズシテ一切

処ニアリ。是什物カ恁麼來ナルヤ。香巖、切ニ此事ヲ參究ス、

故ニ鴻山不説。若説則バ、渠方理致ニ墮ツルヲ知ル故ナリ。

言句ニ咎ハナキ。一心不生、万法無咎ヲ知レ。老僧常ニ

云、無レ取取其可レ取法^{トルヲ}、無レ捨捨其可捨法^ヲ、一向今時相似ノ

禪者、吾宗ハ語句ナシ、實ニ一法ノ与レ人無ト云フヲ、禪門ノ

根源ト思ヘル、可哀哉。故、永平古仏畧錄ニ、徳山ノ語ヲ挙

メ、口与レ心違^{タガフ}、拈出ソ為レ人則駒胎ト馬胎ト。只恐、今時

吾門好善知識トシテ學人ノ尊信スル、皆相似ノ假幻。然公案

ハ可参、不可講、鉄撋子、手ガツカヌト云ノミニメ、吾宗乘

中ノ事、夢未見、可悲ノ時キ。香巖ノ偈ニ、声色外ノ威儀

ノ外字、人ヲシテ鈍置ス。然モ上ノ句ニ、動容揚古路、不墮

悄然機ト云。動容中ノ古路、是豈声色外哉。悄然機ニヲチヌ

ト云、惜ハ、憂思低小也ト訓メ、死ニ面ラサゲルヲ云。更ニ声

色外ニ威儀アランヤ、威儀ノ字モ不レ應、恐クハ声色裡ノ威儀

ナラン、筆誤ナルベキカ。下ノ句モ、上々機ト云、須子細の

ミ。

又冥雲ノ章ニ、いづれの入者カ從縁セざらん、いづれの入者

カ退失あらん、ひとり勤をいふにあらずトハ、此事を發明ス

ルヲ、皆縁ヨリ入ズト云ナシ。桃花ヲ見ルヲ縁ト云ニハア

ラヌゾ。文字言句モ是縁ナリ、払子・竹籠モ縁ナリ、坐禪功

夫モ縁ナリ。故、仏種從縁起、ミミ從仏種ナリ。

自己ヲ轉ソ山河大地ニ帰ナシ、山河大地ヲ自己ニ帰セシム、

自己ノおのづから自己にてあれば、自己ヲ山河大地ト云、山

河大地ヲ自己ト云ニ、さらに其所皈ニナンノ障礙スベキナキ

人。

瑣那ノ章。清淨本然ノ山河大地を、徒ニ穢惡不淨ノ山河大地、

砂土瓦礫トアヤマルベキニアラズ。故云、清淨本然ノ山河大

地を清淨本然ノ山河大地ト、經師、曾テ夢ニモ知ラズ、キカ

ザル故ニ、カクノゴトク問人。經文ノ意モ、審細スルヰハ、

清淨本然ノ山河大地ヲ、云何してか只山河大地トノミ見ンヤ

トナリ。山河大地、清淨本然ノ山河大地ナリ。加之、一切諸

法尽是清淨本然ノ一切諸法ナリ。實ニ仏眼ノ心デ見ヰハ、一

法トメ仏法ニアラザルナキ。一色一声無非清淨、是を、一

切ノ法尽是仏法也云。

山色溪声あらざれば、拈花モ開演せず、得隨も依位せず。溪
声山色ノ功德によりて、大地有情同時成道、見明星悟道する
諸仏あるなりトハ、山色清淨身、溪声廣長舌ト見聞スル、佛
祖同一ノ悟了ナルヲ云。遠方ノ近來トハ、遠方トハ、日
本ヲサシテ云。次下ニ、この日本國ハ海外ノ遠方なり、ト
云仰タレバナリ。

傳^(ア)授業ノ機ヲ得ルモアリ、機を得ザルモアリ、募古してな
らふ機あるべし、訕謗してならわざる魔もあらん、両頭とも

ニ愛すべからず、うらむべからず、いかにしてかうれへなか

らん、うらミざらん。云、三毒を三毒トシレルともがら、ま
れるるによりてうらミざるなりトある。所々書キ誤ルト見ヘ
タリ。○得ト得ザルト、慕古スルモ訕謗スルモ、両頭トモに
愛しモ恨ミモスベカラズ。乍去、人情トシテハ、いかにして

か是を愁イナカラン、ウラミザラン。云ク、三毒ヲ三毒トシ
レルトモガラ、マレナルニヨリテララミザルナリトアルハ、
云ト云フ字、衍字ナラン。ウ(ラ)ミザルナリノ、ウラミザ
ルノ五字モ衍語ナリ。心ハ、三毒ヲ三毒ト知レルトモガラマ
レナルニヨリテナリトアリテ、ウラミザル、ノ五文字、削リ
テヨシ。次下ノ、云クハジメテノ云ノ字モ、衍ナリ。

たゞひとすじに得道をこゝろざす、かつて国王大臣の恭敬・
供養をまつこと期せざるものなり、しかるにいまかくのごと
くの因縁あり、本と期するにあらず、所求にあらず、人天ノ
繫縛ニかゝはらんことを期せざるなりトアルモ、写誤あり。
いまかくのごとくの因縁ありとも、本と期するにあらずトア
リテヨシ。心ハ、国王等ノ供敬ノ因縁アリトモ、初發心ノ時
ノ本期ノ念ニアラズ。此供敬等ノ事を以テ人天ノ繫縛ニか
はらんこと期セザル所なり。しかれども、おろかなる人ハ、
ト下ヘカヽリテヨシ。

(マ)道師をたづね知識をねがふにハ、從天降下、從地涌出トハ、

其志深則無^ト所^ト不^ト導師知識^云、山河国土、刹說衆生説ノ道理

をいふ。或従經卷・知識ノ意。

眼處聞声、これ何必不必ナリトハ、有情も道取し無情も道取
するニ、身處ニもきゝ、心處ニもきく。若將^レ耳聴^バ尋常茶
飯ナリ。眼處^ニ聲^モ、これまた何ゾ必トセン、また必トセズ、
身ニきゝ、心ニきく、一切處不是ナシ。

いわゆる大仏・小仏をしばらく山色・溪声と認ずるものなり
トハ、大仏ニもあれ、小仏ニもあれ、一切諸法をしばらく山
色・溪声ノゴトク清淨身・廣長舌ト認得スベシ。しかば、
諸法尽是廣長舌あり、八万四千偈あるなり。如是見ル、其人
ノ舉似廻脱なり、見徹獨抜なり。

春松秋菊ノ秀操ある、即是実相なり。台教ニ云、松、竹、桜、
當位即妙ト云ガゴトシ。春松をしらず、秋菊を見ざらん、な
にノ草料カあらんトハ、草料ハ馬ノ飼^カイ草^ハ。諸錄ニ、本分
ノ草料ト云、衲僧ノ茶飯をいふなり。今コヽニ曰フモ、松菊
ノ操秀ヲ見ズ知ヌ人ニ、ナンノ仏法ノ正命食、本分ノ草料カ
アラン、ナニトシテカ根源ヲ截断せんヤ。

又心ニも肉ニも懈怠にもあり、不信ニもありトハ、心肉ハ身
心ト云ンガゴトシ。○にもトアルにノ字、衍なり。意ハ、身
ニも心ニも多クハ懈怠ナルもあり、又不信ナルもあり。其ゴ
トク、懈怠不信アラバ自心ニ知ル^ヲナレバ、必ズ仏前懺悔す
べし。

次下ニ、懺悔願心ヲアカス^ト。都テ仏法ハ、信心ヲ以テ基本ト

ス、是を功德ノ母ト云く。信ナクシテ仏法を得ルト云フハ、火中冰ノゴトシ。これ一色ノ正修行・正信心・正信身なり、正修行ノ時、一切ノ溪声溪色、山色山声、ともニ八万四千ノ偈をおしまざるなり。一色ノ正修行トハ、般若ノ智、仏法ノ一色ニして無餘法ナリ。

たとひ溪声山色、八万四千偈を現成せしめざることハ、夜來なりとも溪山ノ声色を舉似する尽力未便ならんハ：一ト。夜來なりともトハ、東坡が悟了せし夜來ノ正當恁麼ノ時節ナリ也、溪山ノ声色ヲ人ニ举似スル底ノ尽力未便ト、イマダ安便ナランニハ、誰カ汝を清淨身・廣長舌ノ溪声山色と見聞せん。汝トハ、溪山ニ汝チナリ

第九 有時篇

いわゆる有時ハ、時すでに有也、有ハみな時ナリトハ、有トハ、是三世ノ諸仏不知有、狸奴白牯却知有ノ有也。什麼物恁麼來ト検点スベシ。這ノ有ハ、仏祖ノ眼睛、衲僧ノ鼻孔ナリ。更ニ、非始有、非本有、非妙有、況縁有・妄有^{ナランヤ}耶。是什麼ノ有ゾ。然亦縁有・妄有也、妙有・本有也。始有也、悉有也。

有仏・有衆生、有煩惱・有菩提、有生死・有涅槃、有山・有河、有牛・有馬、有地獄・有天堂、有三世・有十方、有悟・有迷、有善・有惡、有因果・有業報、一切有^ニ而無^キ非^{ト云フニノ}有者^{ト云フニノ}而無^モ有^{ナル}者^ヲ、是謂^ニ之^ヲ有時ノ眼目^ト、謂正法眼藏涅槃妙心有付屬的妙有^ハ、是法眼ノ所謂、這ケノ時節ナリ。吾洞上三、正中偏、偏中正、正中妙挾ノ中ト云モ、此ノ有ノ字也。故曹山ノ、以偏正言者、不欲犯中是也。老僧常云、不欲犯中之中者、畢竟不動之義也。言ハ、隨緣變動ノ偏ト云ヘモ返本不變之正、正ト云ヘモ偏以偏正言者全無動變^{スル}者、故ニ偏ト云ヘモ正ト云ヘモ、是不犯中之妙詞、其偏正回互ノ円轉速於閃電、是洞上閃電ノ機ト云。彼天台三諦ノ中、似不同。子細ニ參究ノ莫鹵莽者、不犯諱ト云モ同ジ。別ニ有尊貴者、諱ヲ不犯云ニアラズ、只君尊ノ諱ヲ不^モ斤言^{スル}譬^メノミ。此言句、洞上ノ師学、誤錯スルフ、日尚シ、可悲哉。老僧ガ五位辨的ヲ熟覽セヨ。時トハ、這箇時節也。故ニ永平古仏ノ玉ハク、時すでにコレ有ナリ、有ハミナ時ナリ、丈六金身是這ケノ時節ニ現成ス、其ノ、時ナル故ニ仏ノ莊嚴光明アル、或現身而為說法也。然也這ケノ時節、全非別時。いまの十二時に習学スベシ。三頭八臂も是這ノ時節、如是尽^ク時ナル故ニ、今之十二時ニ一如ナルナリ。然モ此十二時ノ長遠短促、いまだ度量せずといへども、人々ミナ是ヲ十二時トイフ。十二時ノ方跡、春秋夏冬、子丑寅卯、朝ヨリ暮ニ至ル^フ明カナルニ依テ、人、是ヲ什麼

ノ時節ゾト疑着セズ、光陰空ク過グ。吾門參学ノ眼目、只此日用光中十二時的ニアリ。朝々日東出、夜々月西沉ム。今日は什麼日ゾ、猫ノ日カ弔ノ日カ。只人第^三旧曆日、今年ハ享保十年ナン月幾日、大尽三十、小尽廿九、朔望、月盈虧ヲ算テ一年十二月一日十二時トノミ年月日時ヲ蓋ス。太虛空、尽十方界、那裡ニカ春秋夏冬ノ更替、幾月幾日、甲^ト乙^ト、丙^ト丁^ト、丑^ト午日、那ノ形様ゾト、如是疑着セズ。ウツラ^トト閑過メ、然モ什麼心ナク埒明アイタ顔ニして疑着セザレドモ、元トヨリ日々好日ナルヲ知ルニハアラズ。サテマタ、一切衆生、元ヨリしらざる物ゴト、事ゴトを、疑着するコトナキニハ非ズ。タマ^ト其疑着スルヲアルモ、是非^ト發明セント心ニ一定決断セズ、容易ニ測度スルノミナル故ニ、其ノ疑フ處ノ前程、行ク先キ、今ノ疑フ處ノ道理、符合スルヲナシ。只疑着スルヲ、且ク其時ノミナリ。

今時、学人ノ下劣無精ノ所致、何ノ日カ知^レ有^ト底ノ時節アランヤ、悲哉。此正法眼藏ヲ拜覧スレモ、己ガ眼目明カナラザル故ニ、其理ヲ發明セザルトハ思ワズ、古仏ノ言句、迂回ナリ、義理未判ナリ、ナドト云テサシヲク。言句難會^{トヨロ}ニ到テ百返千返熟覽セヨ、何不通之有。一切修行ノ様子も如是。木ヲモンデ火ヲトルガ如クセヨ。烟ヲ見テ不可休。儒書孔子如キ睿智モ、三絶^ト韋編^ト、易ノ理ニ通ズトヤラ云。古今宗門ニ博学多才ノ名譽ヲ唱ヘ、道心堅固、見識俊利ナリト云シ人師

モ、元古仏遷化四百餘年ノ間、一人トシテ此書ヲ辨肯スル的ナキ^トハ、痛哉。己ガ盲目ナルヲ云ズ、マタ非^ト知ラズ、却テ古仏ヲ謗ジ、假名字ニシテ漢字ニ非ズ、淺サ^トシキナド悪口スルハ、片腹ラ痛ク、臍ノ笑フゾ。サテ^ト吾古仏ノ宗乘、ナニトシテ四百年來、一ヶモ挙揚ノ人師ナキハ、イカンゾヤ。是ニティヨ^ト難信難解ノ宗乘ナルヲ辨肯セヨ。傳灯一千七百人ノ中、向上ノ闇模子有テ、祖師ノ宗乗ヲ挙揚スル師家、希有ナル^トハ、眼アラバ可見。今ノ人師ハ、己ガ暗痴ナル故ニ、文章ノ美麗ナル永覺ゴトキノ儒僧ヲ尊敬シテ、五百年間ノ知識ナド云フ、笑フニモタラヌ。永平古仏ハ、千歳一遇ノ禪仏ナル^トシラズ。ミナ儒學文字ノ僧ノ云^トヘ。又傍邊ニ、螢山ノ清規ト名ケ、己ガ臆見ヲ以テ種々作法ヲコシラヘ、鐘・太鼓ヲ打ナラシ、十二時中、壱上壱下シテ是ヲ向上ノ事トシ、其ノ間ニ線香ヲ立、坐禪ト云テ瞎睡ス。其ノ見解ヲ聞ク時ハ、唱導法師ノ利智ニモ及ズ。然モ名聞甚ク、種々ノ調偽ヲ以テ金銀ヲ出シ、異國ノ官人、其徳ヲ聞テ碑ノ銘ヲ書テ遺スナド云テ、其ノ黨徒等、鼻ヲホゴメカシテ在俗愚人ニ嚴誇ス。アヽ、甚ノ心行ゾヤ。名聞ノ鹿ヲ追テ山ヲ見ズ、利養ノ金ヲ捉ムデ人ヲ見ズ、己ニ耻ジザルハナンゾヤ。吳國ノ官人、ナニトシテ其徳ヲ知ルヤ、イカナルモノニテ法ヲ荷擔スルヤ。其本国ニテ、イヅレノ善知識ニ参ジテ是ナルヤ。腹ノ皮ノ痛キ、彫偽金銀ヲ以テ唐船頭ニタノミ、

名聞ヲ唐マデ買イニ遣ス。日本ニシテ不レ肯知識、吾永平ノ宗乘、夢ニモ不見。或ハ古人ノ公案ナド邪解スルヲ、其ノ是非ヲモ知ラヌ。官人ノ碑ノ銘、沙汰ノカギリニアラズ。此様ノフ、公儀ヨリ糺明アラバ、魔風少シハ已ナン乎。ナニサマ日本ニテモ、済家ノ文字坊主共、互イニトリハヤシ、序跋等ヲ書ク。是又一ツノ笑ヒ草サカナ。或ハマタ、塔ノ銘ト云テ、行狀ヲ種々調偽シテ十目ノ見トコロ、十指ノサストコロヲ耻

ズシテ、ナニ和尚ノ錄ト云テ判行ス。アヽヽ、今日イカナル時節ニヤ、如是ノ魔類出頭シテ人間ヲ誑ラカス、スベテ古仏ノノ玉フ有時ノ好日ヲ昏マス。今何時候、波旬弊風如是熾盛耶。又或ハ偏參ノ内、黃檗派下ニノメリ込ンデ、一物假似ノ禪ヲ学デ大口ヲ開キ、住持スル時ハ、戒恒ヲ開クト云テ具戒法儀ヲ以テ戒ヲ授ケ、菩薩戒ハ金百疋、具足戒ハ銀壹枚ト、黃檗派ニテスル通リニシテ金銀ヲトリ、私用トナス。実ニ、仏祖有テヨリ戒法ヲ直段^{ネダン}ヅケシテ授クルト云コ聞カズ。是皆波旬ノ、沙門ノ形ト成テ仏法ヲ破滅スルナリ。是ヲ吾門ノ僧録タル者、制スルヲ不^レ能何ゾ。己文盲ナル故ニ、戒定等ノフ、イカナル義トモ知ラザル故ナリ。是モ亦波旬一教ヘ。一ケ二ケノ僧侶アル小寺ニテモ、彼ノ北國ノ螢山清規ト云ヲ習イ帰テ、鐘・太鼓ヲ敲キ、線香ヲ立テ、坐禪スルヲナフシテ鐘・太鼓ノミ打ナラシ、在家ノ耳ニ規矩ヲ立ノヤカラ如麻如粟。^{マコトニ}固惡風ノ移リヤスク、ハビコリヤスキ、悲哉。只今、

天魔波旬ノ、吾門ノ知識トナツテ仏法破滅スルナリ。学者タル者、開眼看如何。今時笄沙学文字僧、正法眼藏全局ハ、古仏有時ノ垂誠ナルヲ知ズ。考年曆前後ノ次第而欲定編次品目、或又此書中擬討^{ニスル}引據^{ネント}經論・儒典等之出處^ヲ一族多シ、鳴呼愚哉。此書ノ施設、古仏徹困慈誨、不^レ与^ニ_{ニアラ}文字博覽^ヲ、汝自己脚跟下一大事之要道也。儻^{モシ}如^{ナル}所求^ハ、則古仏ノ眉目何之有。

われを排列シをきて尽界トセリ、この尽界の頭々物々を時々なりと覗見すべし、物々の相碍セザルハ、時々ノ相碍セザルがごとし。此故ニ同時發心、同心發時なりトハ、我ガ自己ヲ尽十法界トシテ、コノ尽十法界ノ頭々物々尽ク這ケノ時節ナリト觀見スベシ。我ヲ排列シテ尽界トセリト云ハ、彼長沙ノ所謂、尽十方世界是沙門眼、尽十方世界沙門全身、尽十方世界自己ノ光明、尽十方世界在自己光明裡^ニ、尽十方世界無一人^ト不是自己、我常向汝諸人道、三世諸仏共尽法界衆生是摩訶般若光、光未發時、汝等諸人向什麼處委^シ、光未發時、尚無仏無衆生消息、何處ニ力得山河国土^ト來ント云ニ同ジテ、古仏ノ道取ハ、光リノ發・未發ヲ不^レ論、直下ニ辨取セシム。子細ニ究取セヨ。

物々相碍セザルハ時々ノ相碍セザルガゴトシトハ、今日ノ時、明日ヲサヘズ、天竺ノ時節、日本の時節ヲサヘズ。春ハ春、秋ハ秋、人々自己ノ時節も如是。天竺ノ自己ノ時節モ、日本

ノ自己ノ時節モ、今日ハ今日、昨日ハ昨日、ヤリトリナクシテ然モ相碍ナシ。故ニ、有情無情、南北東西、四維上下、尽地尽界、釈迦仏国、弥陀世界、天上人間ノ無量ノ仏国土、同一時、同一發あり。故ニ、同一心、同一時、無碍圓融ト云ヘバトテ、團子團メタルゴトクニハアラズ。各々住其地位、全無往来ノ相、法如是ナリ。

(編者註) 是處ヨリ以下ノ「辨注」ハ、誤綴のために別冊折本中の『十方篇』ノ次ギニ「有時ノ篇ノ末」トシテ入綴ス。草稿ヲ整理シ折本仕立ニスル際ニ誤綴シ、別處ニ貼付シタモノ。

(別冊) △有時篇末へ▽トアリ。

および修行成道もかくのごとし。われを排列して、われこれを見るなり。

一切無他、皆是自己ノ時ナリ、道理それ如是。造作作意ノ致スニ非ズ、恁麼ノ道理なる故ニ。

尽大地・世界に万像百草あり。其万像百草ノ内ノ一草一像に

各々尽大地・尽世界あるナリ。一微塵裡ニ大千世界アツテ、微塵、大ニアラズ、大千、小ニアラズ。大千界ニ一微塵アツテ、微塵、小ニアラズ、大千、大ニアラズ。彼ノ須弥山、芥中ニ來テ大モ亦小トナラズ、小モ亦大トナラズ、如是ノ事ヲ參学スベシ。

かくのごとくの往来、修行の發足なり。無上菩提ノ初發心行如是。到恁麼ノ田地の時、すなわち一草一象、會象不會象ナリ、會草不會草なり。

万像百草ハ、十界ノ依正ヲ云。心ハ、万象ハ正報ノ身ヘ、百草ハ依報ノ境也。是以、一草一象ハ自己ノ依正ヲ云。恁麼知有ノ這ケノ時節、此ノ田地ニ到ル時ハ、万像百草ノ一切衆生、一切境界、只是自己ノ一草一象。有情モ非情モ同一時成道ヘト云バ、會スル底ノミヲ云ト思ヘリ。故會草不會草、會象不會象、密語篇ノ會ノ仏法、不會ノ仏法ノ心ヘ。ケゴン五十二ノ出現品、所謂如來成正覺時、其身中普見^ミ一切衆生成正覺乃至入^ヲ涅槃、皆同一性、所謂無性。一滴ノ四ノ四十二丁六行ヲ見。發心未發心、會得不会得ヲ不論。永平古仏直指ノ宗乘、審細ニ參究スベシ。

正當恁麼時のミなるが故ニ、有時ミな尽時なり、有草有象ともに時なり、時々の時に尽有尽界あるなり。正當恁麼這ケノ時節なるのミ、全ク別時別日なき故ニ、有時ハミな窮尽ノ時節、不可徒過。

しばらくいまの時にもれたる尽有・尽界ありやなしやと觀想スベシ。仏法ならわざる凡夫ノ時節に、あらゆる見解ハ有時ノ言葉を聞いてハおもへらく、有ル時ハ三頭八臂、異類異形となり、有ル時ハ丈六ノ金身仏形相となり、有ル時ハ金剛王宝劍、有ル時ハ路地師子、有時ハ探竿影象、有時ハ不作用ト、

只其ノ時々ノ換面廻頭シ、面具ヲ付カヘルガゴトク、アル時ハ地獄・餓鬼・畜生・修羅・人・天・々・昌・仏・ヰ、アル時ハ冤・ヰ、生死・炎、種々隔碍アリト思フ。是正偏ニ逢ザル両頭三面ノ少賣弄。コトニ他ノ宗派下ニテ四喝ノ声ヘヲ高低ニツカヒカヘテ四喝ノ差ヲ分ル、マコトニ可笑カ、可悲カ。有ノ字、時ノ字、吾古仏ノ道取シマシマス様ナル人師、古今希有ナリ。ヨクノ究取スベシ。今時ノ人師ノゴトキハ、河ヲ過ギ山ヲ過シガゴトクナリト思イ、其山河ハタヒアルラメモ、我ハ過来テ今玉殿朱樓ニ處セリ。シカレバ、過来ル山河ト我トハ天地隔リヌト思フ。是己ガ隔碍ノ妄分別、或ハ文字ノ法師ノ、經々ノ吳別ヲノヽシリ、四教五教ノ判釈ヲ実法ト思フ。是モ有時ノ正眼ナキ瞎禿子ノ誇言ナリ。吾門ノ学徒、脚跟不点地、故ニ、達磨門下ノ言句ハ、尽ク終・頓二教ノ攝ニシテヒキヽコナド云フ五穀帝ノ瞎漢、今時多シ。彼等百千ヶ打殺スモ、ナンノ業報ヲカ論ン。

しかあれども、道理是一條ノミニアラズトハ、上ノ有ル時ミト過來過去ルト思フ道理ノ、一條、一ト通ノミデナイ。

いはゆる山をのぼり河をわたりし時に我有リキ、我ニ時アルベシ、我已ニアレバ時モマタサルベカラズ、實ニ自己アルヲ知ル、是這ケノ時節ナリ。其時節、須臾モサリ、ハナルベカラズ。時モシ去來ノ相アラズバ、山ニ上ルノ時ハ有時の而今なりトハ、時もしノしノ字、衍字ナラン。あらずハノハ字、

衍字。言ハ、時も去來ノ相あらず、山ニのぼりし時ハ有時ノ而今ナリ、マタク別時ナシ。時もし去來の相を保任セバ、上ニ云、われに有時の而今ある、これ真ノ這ケ時節ノ有時ナリ。保任トハ、安ジ知ノギ、保ハ小補ニ礼樂記云、非レ哥孰能保此、註猶レ安也、知也。任ハ、説文ニ保也。通侖ニ、信ニ於朋友二曰レ任、任者人保任也トアリ。

かの上ノ山度ニ河の時、この玉殿朱樓の時を呑却セザランヤ、吐却セザランヤトハ、山ニのぼり河を度リシ時節、今この玉殿朱樓ニ居ル時節を呑却シ去リ、吐却シ来ルニアラザランヤ。山ニ上ル時ハ山ヲ上ル時ニシテ朱樓ニ居ルノ時ハナケレバ、呑却シ去ルトモ云ベシ。然モマタ、山ニ上リシ時トマタク別時ニアラズシテ玉殿ニ来リヌレバ、而今ノ時ヲ昔シノ山ニ上ル時ヨリ吐却シ来ルニ云ベキカ。是を、前云フ、十二時ノ去來、マタかくのごとくの往来ハ修行ノ發足ナリ、ト云ノ時ノ往来・去來ナリ。サラ(ニ)又、昔日ノ時・而今ノ時キ、別時ナク往来ナフシテ去來シ、吳別スルニ似タリ。同中ノ吳、吳中ノ同人。シカル故、次ニ云、三頭八臂へきのふノ時なり、丈六八尺ハけふの時なり。觀彼久遠猶如今日。シカアレ毛、ソノ昨今の道理、たゞこれ山ノなかに直入して千峰万峰ヲ見ワタス時節ノ如ニシテ同時同見ドカ、過ギ去ルニアラズ、到リ、來ルノ時ナシ、是同時一時無時ノ本時、過ギヌルニアラズ。昔日ノ三頭八臂モスナワチ我有時ニテ一ト度ビ経歷ス。三頭

八臂ノ、昔日ノ彼方ニアルニニタレモ、是モ只而今ノ時ヘ、丈六八尺も即我有時にて一タビ経歴ス。彼丈六八尺ノ処ニアルニ似レモ、是モ只而今ノ時ニシテ別ノ時ニアラズ。先キアリ、後チアレモ前後際断ナリ。

しかあれば、松も一時なり、竹も一時なり、仏も一時、衆生も一時、迷も悟も、汝も我も、男子・女人、邪・正、善・悪、一切時節因縁、這ケノ時節ニアラザルナシ。是ヲ以テ、時ハ飛去スルモノト解會スベカラズ、甚大久遠、菩薩本行道ノ時ノ壽命、而今ニ不尽ナリ。毘婆戸仏已前ニ成道了テ、久ク迦葉仏ニ面授ス。唯仏与仏ノ仏面々授ト云フモ、而今ノ有時ヘ。此外、時節ナシ。

如是ナルコヲ知ズ、月舟・円山等ノ、面授ト云、片腹ノ痛キ

トヘ。固ニ仏法夢ニモ不見して、月舟ハ永平古仏ノ再生、円山ハ洞山ノ再誕、了高ハ玄賓ノ再來、唯惠ハナントヤラ云坐禪僧ノ再生ナドト云。愚人ヲ誑惑スル彫偽、是什麼心行ゾヤ、アサマシシトモ云モ、ヲロカナルゾ。若永平古仏ノ、月舟ゴトキノ愚僧ニ再誕アラバ、什麼ノ好面目カアラン。參同契・宝鏡三昧ノ注トテ猶耳ト云モノ、世ニ流布ス。サテく腹筋ノヨレルヘ。先ヅ題号ノ猶耳ト云文字ハ、言猶在耳ノ切り文字、珍敷キ切リ羊カナ。或僧云、猶耳トハ今猶キクガゴトク云ノ心ナリ。耳ノ字ヲ、キク、ト訓ズル故ニト、マギラカス。是モ彫偽ノ黨類、可笑哉。月舟言バヲ、侍者了意トヤラ云モ

ノ記ス。故ニ、月舟言バ猶在耳ト、其書ニ云テアリキ。其言バ耳ニ在レバ、イヤナコ忘却シ去ラバ好シトセン。無機ノ旨僧モ、人ヲ惑ステ参考ノ魔事ナル、故ニ如是辨ジ置クナリ。全ク彼レヲ誹謗スルニハ非ズ、覽者意セヨ焉。

サテ、時ハ飛去スルニアラズ、飛去スルハ時ノ能詮ノミト学スベカラズ。飛去往來スルニ似ヘ、曾不動。肇師ガ物不遷ノギニ近シ。常在此説法ナリ、聽法ナリ。欲知仏性義應觀時節因縁トアル炎ノ文、此意ヘ。時もし飛去スルニ一任せバ、間隙アラン。イカンナレバ、きのふトけふト来ル(ト)云ヒ、去ルト云、其ノ迁移スル、是間隙ナリ。更ニ流迁スベキナシ、水不流ト云ガゴトシ。シカモマタ橋ノ流ル、アリ。流ト不流ト、共ニ假法ニメ、是祖門ノ活法ナリ。

有時ノ道を經聞せざるハ過ぬるとのミ学するによりてなりトハ、經聞ハ經歴ナラン、次下ノ文ト見合セ考ヘヨ。有時ノ道ヲトクト経歴シ得ザル故、只時ハ過ルノミト学スルナリ。其要をトリテ云ハバ、尽十方界ニ所有尽有ハつらなりながら其時々レルナリ、有時なるによりて吾有時ナリ。如是ニ日用光中空ク輕過セザル片、

時ニ経歴ノ功德あり。経歴トハ、イワユル今日ヨリ明日へ経歴シ、今日ヨリ昨日に経歴シ、昨日ヨリ今日ニ経歴シ、今日ヨリ今日経歴シ、明日ヨリ明日ニ経歴ス。如レ是経歴スル、是時功德なり。故ニ、古今ノ時カサナレルニアラズ、ナラビ

ツモレルニアラズ、前後際断、古來今ニアラズ、只是時キナリ。故ニ、青原モ時ハ、黃檗モ時ハ、江西モ石頭モ時ハ。自他スデニ時ナル故ニ、自他ノ修證、コレコノ時ナリ、入泥入水同じく時なり。シカノミナラズ、今マ凡夫ノ見、および見ノ因縁、是凡夫ノ見ル所なりといへども、凡夫ノ法にあらず、且ク凡夫ノ境界ノ因縁のミハ。スベテ妙淨明ノ体ナリ。しかれば凡夫ハ、此ノ時々の有即法ノ本法ニハアラズト学スル、故ニ丈六金身ハわれにあらず他人ナリ、と認ズルナリ。学するノ学ノ字、覺ノ字ニして穩カナリ。われを丈六金身ニあらずとのがれるとすとも、皆是有時ノ片々ニして他時他日ニあらず、汝語く。未證拠ノ者ハ看ヨハナリ。

今世界ニ排列シツラナレル午羊申酉ヲアラシムルモ、住法位の恁麼ナル昇降上下ナリ。ネズミモ時ナリ、トラモ時なり、生モ時ナリ、仏モ時ナリ。この三頭八臂ニテ尽十方界ノ事ヲ證得シ、丈六金身ニテ尽界ヲ證ス。換面回頭スベカラズ、故ニ尽界ヲ以テ尽界とスルヲ、此道ヲ究竟スルト云ナリ。丈六金身をもて丈六金身トルを、諸仏ノ發心・修行・苦・炎と現成スル、是マタ有ナリ、時ナリ。然モ尽時ヲ尽有ト究竟スルノミ、別ノ究竟ノ道理ナシ。故ニ、サラニ剩法ナシト云フ。タトヒ其剩法ト云フモ、只是剩法なるが故ニキラフベキ法ナシ。タトヒ半究尽ノ有時モ、半究尽の究尽ナリ、究尽ノ別ニ、究尽スベキ法ナシ、只時々是有時ノ時ハ。タトヒ蹉過スト見

ユル形段モ、有ナリ。サラニカレノ有ニ任マカスレバ、蹉過の現成する前後ナガラ、前後際断ノ有時ノ住位ナリ。住法位ノ活鱗々地ナル、コレ有時ハ。是ノ有時ノ活計ニヲイテ、無トモ動着スベカラズ、有毛強為スベカラズ。シカルニ、

時ハ一向にすぐるとのミ計功して、未到ト解會せずトアル処ハ、未到ト解會ストアリテ好シ。シカアラザレバ、前後ノ字義不通ナリ。言ハ、凡情ノヲモワクハ、時ハヒタスラ過ギ往キ過ギ來リテ三世ニ流遷スルノミト解會スル。故ニ仏性顯現ノ時節未ヒ到ナドト差過ノ見、ヲコル。シカモ其解會ノ見モ、有時ノ時ナリ。シカリトイヘ毛、ソノ解會ノ他に、ヒカル、諸縁ノ時ナシ。時ハ時ナリ、是什麼ノ時ゾ。コノ心ハ、仏性ノ篇ニ合セ可見。仏性ノ現ゼザル時節ナク、時節トゾ現ゼザル仏性ナシ。此ノ解會ハ時ナリトアル、ハノ字、モノ字ニシテ好シ。

去來ト認じて住位ノ有時と見徹スル皮倅ナシ、いはンや此一段底向上ニ透闇スルノ「明眼」アランヤ。タトヒ一徃一切時ハ是法住位ノ時ナリト知見ヲ以テ認得すとも、誰カ既得恁麼の保任安心ヲ道得スルアランヤ。たとひ恁麼と道得せること久しきも、いまだ面目現前を摸索せざるありなし。此所写誤アルト見ヘタリ、故ニ老僧是を辨注ス。

久しきをトアルをノ字ハ、もノ字ナラン。せざるなしトアルなしノ二字、ありト云二字ナラン。不レ然文義圓通シガタシ、

有眼決示_{セヨ}之。

凡夫ノ有時ニ一任スレバ、菴・炎モワズカニ去來ノ相ノミナル有時ニシテ、隔別不融ノ法トナル。大凡ソ羅籠スレモ不留、呼喚スレモ回頭セザル、是有時現成なり。此有時、羅籠シ留ムルトモ、留ランヤ。喚モ頭ヲ回ンヤ。只前後際断、去來無間、有時現成ナリ。今右界ニ現成シ左方ニ現成スル天王天衆、今モ我ガ尽力する有時なり、其餘外ノ水陸ノ衆生ノ有時、コレ我ガ今尽力して現成スル。我ガ尽力ノ我ガ、人々ニ我ガナリ。水陸ノ衆ノ下ニ生ノ字脱スル。

冥陽ニ有時なる諸類諸頭、皆人々我ガ尽力ノ現成ナリ、尽力ノ經歷ナリ。尽力トハ、人々ノ尽ク業力ノ所感「ナリ」、他ニヨルニアラズ。冥陽ハ猶言「明暗」、「冥陽明ノ地ヲサス」。故下ニ云、我今尽有經歷ニあらざれば、一法一物も現成することナシ。他人ノ經歷スルヲナシト参考スベシ。

經歷といふハ、風雨ノ東西スルガ如ク学スベカラズ。尽界ハ不動転なるにあらず、不進退なるあらず、經歷なり。經歷ハたとヘバ春のごとし。春ニソコバクノ様子アリ、是ヲ經歷ト云。外物ナキニ經歷スルト参考スベシ。經歷ノ字義、行履履践、字義ニ同ジ。

たとヘ春の經歷ハからず春を經歷スルなり。如是經歷スル者ハ、春ニあらざれども春ノ經歷なるゆへに、經歷スル的今マ春の時に春の經歷の成道セリ。秋夏冬モ亦如是、此旨審

細ニ参来参去スベシ。經歷をいふに、經歷ノ境ハ外頭ニして、能經歷の法ハ東ニ向_キて、百千世界を行過て百千万劫を経ルトおもふハ、仏道の参考、これのミを專一にせざるなりト。此義難_ニ辨_ケシ。且ク老僧ガ解スル所ハ、能經歷ノ行履的ノ法ハ、たとヘバ東方ニ向イテ百千世界ヲ過テ百千万劫ヲ經歷スルガ如ク、那邊ニ向去シ去ルノミ。經歷ノ修行、行履ノ專一トハセズ。元來在這裡、黃檗所謂今日ノ事也。又古人云、我於此切ナリ的ノ時節ナリ。

藥山弘道大師、因無際大師ノ指示ニよりて……不是ト。眉目ハ山海なるべし、山海ハ眉目なるゆへに。ソノ教伊揚ルハ、高々タル山頂ヲ見ル。その教伊瞬ハ、深々タル海底を宗すべシ。宗スト云モ、見ト云心_ハ、天子夏諸侯ヲ見ルヲ宗ト云ヘバ。是ハ伊ニ慣習せりトハ、慣習ハ、孔氏曰、幼成若ニ天然_ハ習慣_ハ如_ニ自然_ハ。揚眉瞬目是ノ是ハ、伊ニ自然ナリ、造作スルニアラズ。伊ハ教ニイザナワレテ揚眉瞬目ス。不是ト云ハ、非不_ハ教_ニ伊_ニ揚眉瞬目_ハ、不_レ教_ニ伊_ニ揚眉瞬目_ヲ不是ト云ニハアラズ、是ト云、不是ト云、これともに有時_ハ。山も時_ハ、海も時_ハ。皆前ノ例ヲ以テ見ヨ、易_キ見ナリ。

時もし壞スレバ山海モナシ。此道理ヲ辨_ケスル件、明星出現、如來出現、眼睛出現、拈花出現、これ皆這ケノ時節ナリ、時にあらざれば、不恁_ハ差過シ去。葉縣ノ省禪師曰、有時意到句不到……意句共有時ナリ、到不

到有時く。時節到時未了ナリトモ、時節不到ノ時モ、有時來ナリ。意ト云駢ナリ、句ハ馬ナリ。駢馬ノ二字、古仏所々ニこれを云、善惡迷悟ノギニトルく。駢事不_レ去、馬事到来。迷ヲ去ラズ、悟リ来ルノギく。今此ニ云、到時未了、不到時來ノ意ニ同ジ、馬ヲ句トシ駢ヲ意トス。未ヘニ、意ハ現成公案の時く、句ハ向上闕模子の時く、トアルヲ以テ見ヨ。

到それ來ニアラズ、不到これ未ニアラズトハ、來ルニアラズ、未ダシク來ラザルニアラズ、到ト不到ト、併ナガラ時ナリ。故云、有時かくのごとくなりト。イ本ニ、有時のかくのごとくタルのノ字ハ入ヌナリ。到ハ到ニ墨碍セラレテ不到ニ墨碍セラレズ、不到ハ不到ニ墨碍セラレテ到ニ墨碍セラレズ。

墨碍ノ字、前ニモ辨ズ。古仏ノ心ハ、水ニ月ノ印スルガゴトキヲ墨碍トノ玉フゾ。墨碍ノ字、心ハ行持篇ノ下ノヲクヨリ四丁目ヲ見ヨ。曹山ノ墮ノ字ノ意味ゾ。意ハ意ヲサヘ意を見ル、句ハ句ヲサヘ句ヲ見ル、碍ハ碍ヲサヘ碍ヲ見ル、碍ハ碍ヲ碍スルナリ、サラニ二法ナキヲ究取スベシ。

これ時く、碍ハ他法に使得セらるといへども、他法を碍する碍、いまだあらざるなり。是以我逢人なり、人逢人なり、我逢我なり、出逢出なり。これもし時を得ザルニハ、恁麼ナラザルく。只這ケノ時節ニシテ余ナク如是ナリ。

又意ハ、現成公案の時なり、句ハ、向上ノ闕模子ノ時く、到ハ、脱体の時ナリ、作為スベキナシ。脱体トハ、己レナリケ

リ、檐ノ玉水ナリ。不到ハ、或即_シ此離_{ニスル}此時節ナリ。上ミ如是辨肯シ、有時スベシ。向來_{サキヅカタノシ}諸尊宿、共ニ恁麼いふとも、さらに道取スベキ所ナカラシヤ。已ニいふベシ、意句半到也有時……あるべきなり。

教伊揚………有時
教伊揚………錯有時

不教伊揚………錯々有時

恁麼の如ク、參來參去、到參不到參スル、共ニ有時の時なり。

(未完)

(付記) 本書の翻刻に当つては、原本の撮影(現在『正法眼藏蒐書大成』続輯本として写真収録・刊行の作業中)及び翻刻を御許可頂いた陽松庵・故加藤良道老師、現董福本高芳老師に対し、甚深なる謝意を表する(編者)。